

第 1 回 史跡元寇防塁（箱崎地区）整備活用検討会 議事要旨

■ 展示施設について

①遺構展示

- ・海側からの視点で、石積みの全体感や長大さを伝える展示を検討した方がよい。
- ・防塁をレプリカ等で復元するなら、箱崎地区の調査や研究成果に沿ったものとするべきで、今津地区や生の松原地区とは異なる観点で復元する必要がある。

②映像を活用した理解促進

- ・海が近いことが体感できる映像はインパクトがあってよい。
- ・防塁の築造過程などを、築造前からの時系列に沿った映像で見せたうえで、今ここに残っているのが露出展示する石積み遺構であることを伝える手法を検討した方がよい。
- ・壁面映像のほか、俯瞰や双方向性を高める 3D ゴーグルや、タブレットの利用などが考えられるが、それぞれ長短所があるので、コンテンツの内容やターゲットに応じて手法を検討していくのがよい。

③体験展示など

- ・防塁の地区ごとの築造方法や構造の違いがわかる体験展示があるとよい。築造体験など、能動的なコンテンツが効果的では。
- ・兜の着装体験などは、アナログ手法の方が外国人受けもよく、フォトスポットにもなる。
- ・兜を着けた武将隊などの人が説明する手法もある。ヨーロッパでは、地域ボランティアの活用が多く、地域とのつながりやシビックプライドの醸成にもつながっている。
- ・レプリカを触るだけの展示は効果が薄い。「てつはう」のように、映像を交えて伝えたほうが効果的と考えられるコンテンツもあるのではないかな。

■ その他

- ・箱崎に九州大学があったこと、九州大学総合研究博物館との連携も考えてほしい。
- ・箱崎は東の玄関口になるので、福岡全体が把握でき、これからどこに行けばいいのかというコンテンツを供給すべき。
- ・周遊としては、元寇からみた市域全体、箱崎のマチ、九大跡地内の 3 つのレイヤーがある。まち歩きなどの情報発信も検討してほしい。